第142回 評価専門調査会の御指摘を踏まえ専門調査会後に修正

参考資料１

「基本計画の進捗状況の把握・分析」のまとめ・今後の進め方

ロジックチャートを用いた分析手法について、今回の試行（「研究環境の再構築」の分析）を通じて得られた成果及び課題を踏まえ、来年度は以下のような分析・評価の取組方針で進めることとしてはどうか。

１．ロジックチャートと主要指標等の変化に基づく分析（試行的取組の横展開）

①ロジックチャートを用いた指標の収集・分析（A-1）

・基本計画における主要指標・参考指標の継続的な収集、及びロジックチャートを用いた分析を実施する。

※次期基本計画や年次戦略の策定、各種政策パッケージの推進のためのエビデンスの基盤として、基本計画における主要・参考指標の継続的な収集や、ロジックチャートによる因果関係の分析は重要である。

・e-CSTIを活用しつつ、主要指標・参考指標等の内訳・要因分析（分野別、セクター毎等）を実施する。

※分野別やセクター毎の目標への到達度や取組の課題を把握するため、内訳分析は重要。
※特に、指標の改善に向けて組織のマネージメントに拠るところが大きい場合、組織別やグループ別、或いは個別の取組を進める組織の数等のメタ指標を検討。
※ただし、追加ﾃﾞｰﾀの収集が必要な場合には、現場の負担を考慮し、新たな調査の実施は最小限にとどめ、既存調査の枠組みの活用等を検討する。また、網羅的な要因分析に陥らないよう、必要性やその意図を慎重に検討する。

②基本計画を構成する施策群の全体像の見える化（A-2）

・指標の変化のタイムラグを考慮し（①の補完として）、施策群の全体像把握（見える化）を実施する。その際、基本計画の目標を達成するために開始された代表的な施策（テーマ当たり数施策）の推進状況を中心に把握し、このアウトプットがもたらす基本計画の方向性への貢献（主要指標・参考指標への影響等）を議論する。

※施策群の全体像把握（見える化）については、統合イノベーション戦略のFU(フォローアップ)や既存の行政事業レビュー等を適宜活用。ただし、目的は大きな流れの把握であり、網羅的な個別施策の分析・評価やそのための作業に陥らないように留意。

２．政策パッケージや分野別戦略のフォローアップ結果に基づくメタ評価（拡充事項として検討）

・大きな方向性を確認するという観点から、基本計画の柱を構成する各種政策パッケージや分野別戦略のフォローアップ結果に基づきメタ評価を実施。これらがもたらす基本計画の方向性への貢献や課題等を議論する。

※CSTIが牽引する政策パッケージ（若手研究者支援パッケージ等）や分野別戦略について、木曜会合等を活用してフォローアップしたうえで、その結果を評価専門調査会で議論することを想定している（担当Gとパッケージとりまとめの有識者会議座長等（必要に応じて各省）による説明を想定）。
※個別施策の評価やそれぞれのフォローアップの「屋上屋」化とならないように留意しつつ、基本計画の方向性への貢献や、政策横断的/横串的視点による他の政策パッケージとの相互連携を促進。